

ステークホルダー諮問委員会 (SAC) ステークホルダー・フォーラム
会議議事録

議題	「SAC ステークホルダー・フォーラム」—エイプリル社の持続可能な森林管理方針 2.0 の実施に関する KPMG 社評価に関する討議	
場所	ジャカルタ・マンダリンホテル 3階大宴会場	
日付	2017年3月3日	
時間	インドネシア西部標準時午後2時~4時	
参加者	<p>招待客 (エイプリル社、KPMG 社および SAC 内部関係者を除く。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 招待状発送: 128 ● 回答: 63 ● 出席者: 40 	
	協会	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. イマーン・サントス氏 (インドネシア森林企業家協会) 2. コンスタンツ・ヴァン・エールショット氏 (持続可能な開発のためのシンガポール経済人会議) 3. ブディ・サントサ氏 (持続可能な開発のためのインドネシア経済人会議) 	
	銀行	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. バグース・アディティヤ氏 (バンク・ネガラ・インドネシア銀行) 2. グスチアヌス・タムプナン氏 (バンク・ネガラ・インドネシア銀行) 3. レトノ・ムワルニ氏 (バンク・ネガラ・インドネシア銀行) 4. アンディ・ウィジャヤ・ユースフ氏 (東京三菱 UFJ 銀行) 5. バンカラン・アフエンディ氏 (東京三菱 UFJ 銀行) 6. ヘリ・スプリヤディ氏 (バンク・ラクヤット・インドネシア銀行) 7. リナ・サリ氏 (バンク・ラクヤット・インドネシア銀行) 8. リファニ・アルザグ氏 (バンク・ラクヤット・インドネシア銀行) 9. ティナ・プリアティナ氏 (バンク・ラクヤット・インドネシア銀行) 	<ol style="list-style-type: none"> 10. ワフ・スルスティヨノ氏 (バンク・ラクヤット・インドネシア銀行) 11. エルソン・ウィナルト氏 (三菱 UFJ リース・インドネシア) 12. 染谷功 (氏三菱 UFJ リース・インドネシア) 13. パンドラ・ヌール・パトリア氏 (三菱 UFJ リース・インドネシア) 14. 加藤ヤスアキ氏 (三菱 UFJ リース・インドネシア) 15. ダニエル・プラノト氏 (オリックス・インドネシア・ファイナンス) 16. ハンディ・チャン氏 (オリックス・インドネシア・ファイナンス) 17. 一ノ瀬ススム氏 (オリックス・インドネシア・ファイナンス) 18. JT リー氏 (クレディ・スイス)
	大使館	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. アンダース・ウィックバーク氏 (スウェーデン大使館) 2. ラトナー・ヘンドラシ氏 (スウェーデン大使館) 	
	政府	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブディ・ワルダナ氏 (泥炭回復局) 2. シシリア氏 (泥炭回復局) 3. ローラ・レビアニ氏 (環境林業省) 	
	国際機関	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘリー・プルノモ氏 (国際林業研究センター) 2. ハルトモ・プラボラ氏 (森林管理協議会) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラーティ・ルキト氏 (ザ・ネイチャー・コンザーバンシー) 2. トリ・スカルマン氏 (ザ・ネイチャー・コンザーバンシー)
	非政府組織	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. アッハマド・ファハルディン氏 (ピダラ) 2. ヨセフ・アリハディ氏 (アジア太平洋地域コミ) 	<ol style="list-style-type: none"> 5. アルフィ・シャキーラ氏 (社会林業アセアン作業グループ事務局)

	ユニティ森林訓練センター・インドネシア) 3. エディ・プルワント氏 (トロペンボス) 4. ジェニ・パレイラ氏 (野生生物保全協会)	6. リア・ススィラワティ氏 (社会林業アセアン作業グループ事務局) 7. ドウィ・リズキ/ハスビ氏 (パートナーシップ事業協力)		
	<p>大学</p> 1. ドディク・リド・ヌーロチマト氏 (インドネシア・ボゴール農科大学) 2. リネスコ・スカマディ氏 (インドネシア・ボゴール農科大学) 3. サタヤワン・パディヤトモコ氏 (インドネシア・ガジャマダ大学) <p>エイプリル社、SAC および KPMG 社</p> <table border="1" data-bbox="338 622 847 1126"> <tr> <td data-bbox="338 622 847 1126"> エイプリル社 1. イブラヒム・ハサン 2. ルシータ・ジャスミン 3. アグング・ラクスマナ 4. ディアン・ノヴァリナ 5. ルディ・セティアワン 6. トリアナ・クリサンディニ 7. ベルナード・アレクサンダー・リード 8. インドラ・ハリム 9. ヘニティア 10. アリナ・ムスタディア 11. フェンビアルタ・ビナル・ブットウラ 12. アナスターシャ・エマニュエル </td> <td data-bbox="847 622 1361 1126"> SAC 1. ジョセフ・C・ローソン氏 2. ニール・バイロン氏 3. アル・アザール氏 KPMG 1. ルーパ・ダヴェ氏 </td> </tr> </table>		エイプリル社 1. イブラヒム・ハサン 2. ルシータ・ジャスミン 3. アグング・ラクスマナ 4. ディアン・ノヴァリナ 5. ルディ・セティアワン 6. トリアナ・クリサンディニ 7. ベルナード・アレクサンダー・リード 8. インドラ・ハリム 9. ヘニティア 10. アリナ・ムスタディア 11. フェンビアルタ・ビナル・ブットウラ 12. アナスターシャ・エマニュエル	SAC 1. ジョセフ・C・ローソン氏 2. ニール・バイロン氏 3. アル・アザール氏 KPMG 1. ルーパ・ダヴェ氏
エイプリル社 1. イブラヒム・ハサン 2. ルシータ・ジャスミン 3. アグング・ラクスマナ 4. ディアン・ノヴァリナ 5. ルディ・セティアワン 6. トリアナ・クリサンディニ 7. ベルナード・アレクサンダー・リード 8. インドラ・ハリム 9. ヘニティア 10. アリナ・ムスタディア 11. フェンビアルタ・ビナル・ブットウラ 12. アナスターシャ・エマニュエル	SAC 1. ジョセフ・C・ローソン氏 2. ニール・バイロン氏 3. アル・アザール氏 KPMG 1. ルーパ・ダヴェ氏			
<p>議論のテーマ</p>				
<ol style="list-style-type: none"> 1. ジョー・ローソン氏 : SAC 委員長 <ul style="list-style-type: none"> ● SAC の役割は、SFMP 2.0 の実施に関しエイプリル社を監視し、同社に意見を提供すること。 ● SAC は、2015 年 6 月の開始日から 2016 年 6 月までの SFMP 2.0 の各要素の実施に関する評価を KPMG 社に委託した。 ● KPMG PRI 社の評価に基づき、SAC はエイプリル社に提言を行った。 2. ルーパ・ダヴェ氏 : KPMG 社 <ul style="list-style-type: none"> ● 計画策定、データの見直し、現場視察および報告など、エイプリル社の SFMP 2.0 の実施を評価する KPMG 社のプロセスを提供 ● SFMP 2.0 の指標は、ステークホルダーの意見を交えてエイプリル社と SAC により作成された。これらの指標は、固定されたものではない。将来の評価プロセスのために、指標はそれとの関連性に応じた追加、改良もしくは削除が可能である。 ● 今年の評価は 2015 年 6 月から 2016 年 6 月までの期間を対象にしており、評価期間以降多くの進展があったと指摘。 ● 評価結果の概要 : <ul style="list-style-type: none"> ○ 不適合および改善すべき点は主にサプライヤー関連 ○ エイプリル社は現在、421,000 ha の保全および回復エリアを管理し、1 対 1 の目標 (植林 1 ha ごとに 1 ha を保全) を履行している。 ○ 将来の評価プロセスに向けて、エイプリル社の社会経済的影響を測定するための一層洗練された一連の指標が必要。 ○ エイプリル社の苦情処理標準業務手順書 (SOP) の社内外の周知化が改善されなければならない。 				

<p>○ エイプリル社の持続可能性ポータルサイトは、透明性に対する同社の誓約を反映するようデータとアクセシビリティの改善が引き続き必要。</p>
<p>3. ディアン・ノヴァリナ：エイプリル社</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 確認された発見事項に関するエイプリル社の行動計画およびそれに対応するスケジュールを提示した。 <ul style="list-style-type: none"> － 不適合事項 3 件—完了 － 改善が望まれる事項 7 件—完了 － 改善が望まれる事項 7 件—進行中 － 改善が望まれる事項 14 件—開発中

質疑応答

第1セッション—KPMG 社への質問

ドディク・リド・ヌーロ チマト氏（インドネシ ア・ボゴール農科大学）	・指標の作成はどのような方法でやられているのか。社会的な影響を測定するために立てられている指標は存在するか。
ルーパ・ダヴェ氏（KPMG 社）	・指標はSACとの議論により社内的に立てられたもの。社会的管理計画や影響評価は査定されなかった。次回評価について、社会経済的指標は現在の一時的な指標から改善されよう。
ジョー・ローソン氏（SAC）	・SACもこれらの指標の構築に関してエイプリル社と議論した。SACは、2017年5月に別の会議をもつ予定であり、この問題はその会議で議論されることになる。
ヘリー・プルノモ氏（国 際林業研究センター／イ ンドネシア・ボゴール農 科大学）	<p>・エイプリル社のファイヤー・フリー・ビレッジプログラム（FFVP）およびファイヤー・フリー・アライアンス（FFA）を結成する同社の取組みを高く評価。</p> <p>・本日のフォーラムで実質的なやり取りができるよう、KPMG社の資料（監査報告概要と行動計画）の1週間前の配布を提案。</p> <p>・KPMG社の評価によると、評価期間中756haが野焼きされている。その一方、国際林業研究センターのモニタリングによれば、2016年10月にはエイプリル社のコンセッションエリアで何千もの火災頻発地帯がある（300万haの火災頻発地帯の少なくとも20%にあたることから見て、エイプリル社とAPP社のコンセッションエリアだと述べた）。</p> <p>・景観アプローチ：インドネシア政府はザムルート国立公園に関する政府の反応に証明されるように景観アプローチに関するエイプリル社その他の取組みに満足していない。エイプリル社は景観アプローチに関して今後どうする予定か。</p>
ジョー・ローソン氏（SAC）	・その意見を了解し、文書を前広に配布しなかったことを陳謝。これらの文書は2016年12月から我々のウェブサイト上で入手できるようになっている。
エイプリル社	<p>・ザムルート国立公園に関して：弊社は大臣の決定を十分敬意を払って受け入れており、こういう状況が生じていることを誠に遺憾に思う。弊社はインドネシアの森林の責任ある管理に引き続き尽力する。</p> <p>・土地および森林火災に関して：弊社による調査で、殆どの火災頻発地帯が実際には野焼きではないことが確認されている。適切な土地管理で火災事故を防ぐことができ、また生産活動と保護の両立が可能である。弊社は国際林業研究センターと協働して火災頻発地帯に関する情報の正確さに関する共同研究を行いたい。</p>
イマーン・サントス氏（イ ンドネシア森林企業家協 会）	・KPMG社の評価から学んだ知識と教訓を共有するためにエイプリル社がインドネシア森林企業家協会の会員と会合するよう提案。SACのすべての提言を来年達成することは可能か。
ルーパ・ダヴェ氏（KPMG 社）	エイプリル社は今後行動計画に基づいてこれを示すことになっている。

ジョー・ローソン氏 (SAC)	・SAC は行動計画の進捗状況の会議と再検討が議題の一つになると結論したばかりだ。
第2セッション-エイプリル社への質問	
ラーティ・ルキト氏 (ザ・ネイチャー・コンサベーションシー)	・サプライヤーがSFMP 2.0 を遵守していない場合のペナルティはどうか。サプライヤーのSFMP 遵守スケジュールはどうなっているか。
エイプリル社	・SFMP 2.0 はエイプリル社とそのすべてのサプライヤーに適用される。エイプリル社にはサプライヤーのSFMP 遵守をモニタリング・検証・報告するための適正評価手続と標準業務手順書 (SOP) がある。エイプリル社は、ペナルティだけに注目するのではなく、作業方法に影響を与えるためのサプライヤーとの関与プロセスの一つとこれを捉えている。しかし、何らの変化の兆候も意欲もない場合は、最後の手段として契約を解消する。
エディ・ブルワント氏 (トロペンボス)	・サプライヤーは評価報告書に含まれていたのか。
ルーパ・ダヴェ氏 (KPMG社)	・長期・短期のサプライヤーは、データが入手可能な限度で評価に含まれていた。データが入手できなかったときは、これを不適合事項または改善が望まれる事項として記録している。
ヘリー・プルノモ氏 (国際林業研究センター/インドネシア・ボゴール農科大学)	・環境林業省は最近、泥炭地保護に関する一連の規則を発令した。これがエイプリル社にどのように影響するだろうか。
エイプリル社	・エイプリル社は、これらが業界に相当な影響を与えるので、規則の詳細について分析しているところだ。
ジョー・ローソン委員長 (SAC) の総括	
<ul style="list-style-type: none"> ● フォーラムへの出席・参加に謝辞を述べた。 ● 本日の討議が多く of 有益な知見を与えてくれた。 ● 5月の次回 SAC 会議で、追加の評価指標が議論されることになっている。 	